



会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成27年11月20日(金曜日) 午後 3時00分～午後 4時10分	
場所	文化センター3階 講習室5	
委員	堀口 文昭 (八幡市長) 大隅 久美子 (教育委員長) 松下 順英 (職務代理者)	布目 有希子 (教育委員) 橋本 陽生 (教育委員) 谷口 正弘 (教育長)
事務局	教育部長 大東 康之 教育部付部長 茨木 章 教育部次長 北 和人	教育総務課課長 寺村 敏美 教育総務課庶務係長 林 左和子 教育総務課 大崎 茂夫

1. 開 会

- ・市長あいさつ

2. 議 題

- (1) 教育大綱(案)について

資料1

- 3. 八幡市の教育行政について
(意見交換)

4. 閉 会



	内 容
[事 務 局]	<p>1. 開 会</p> <p>定刻となりましたので、只今から平成27年度第2回八幡市総合教育会議を開会いたします。まず初めに、堀口市長からご挨拶を頂きたいと思います。</p> <p>・市長のあいさつ</p>
[市 長]	<p>皆さん、こんにちは。確か教育委員会の後という事で、ご苦労様です。早いもので6月の第1回総合教育会議にお集まりいただいて5カ月が経過しました。</p> <p>前回は、第1回目という事で、最初に総合教育会議の運営に係る設置要領等を定めまして、次に八幡市教育大綱に関してのイメージ案を提案させていただきました。委員の皆様から色々ご意見を頂き、ありがとうございました。</p> <p>本日は、前回の協議内容に続きまして、八幡市教育大綱策定に向け、更に議論を深めてまいりたいと考えております。お手元の資料に八幡市教育大綱（案）という形でお示しをさせていただいております。この大綱案につきまして皆様方のご意見を頂き、次回の会議では、成案として定める事ができればと思っております。</p> <p>また、3番目の八幡市の教育行政につきましては、教育現場の課題や問題点につきまして、忌憚のないご意見を頂戴してまいりたいと思います。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
[事 務 局]	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、これより議題に入りますが、会議の進行役を市長にお願いしたいと存じます。市長よろしく願いいたします。</p>
[市 長]	<p>2. 議 題</p> <p>(1) 教育大綱（案）について</p> <p>それでは、次第に則りまして、(1) 教育大綱(案)について、協議をお願いしたいと思います。お配りしております資料1. 八幡市教育大綱(案)について、事務局から説明願います。</p>
[事 務 局]	<p>1回目の会議で、イメージ案について協議して頂きましたが、基本的には第4次八幡市総合計画の後期部門別計画「第2章次代を担う人づくり」を進め、文化芸術を守り育てるまちにかかわる基本的施策がでてきますので、そのところを基本に作成しております。表紙をお捲りください。1ページでございます。</p> <p>本大綱は、八幡市総合計画に掲げる「自然と歴史文化が調和し 人が輝く やすらぎの生活都市」「自立と協働による個性あふれるまちづくり」の実現のために、次代を担う人づくりの礎となる「教育」、まちの活力の源となる「文化」と「スポーツ」の一層の推進を図るための方向性を示すものです。</p> <p>この大綱の趣旨は、1. 将来都市像「自然と歴史文化が調和し、人が輝くやすらぎの生活都市」～自立と協働による個性あふれるまちづくり～ということで、第4次計画の将来都市像に合致しております。</p> <p>2. 基本理念は、3点ございます。(1) だれもが豊かな人間力を身に付け、自分を磨き、やわたをつくる子どもの育成。(2) 家庭・学校・地域社会・関係機関の連携による青少年の健全育成。(3) 若い世代から高齢者まで市民力を高める学習機会の充実とスポーツや文化芸術活動の推進。以上3点をめざしますことを「基本理念」と書かれております。</p> <p>3. 基本構想でございますが、(1) から (6) まででございます。</p> <p>(1) 就学前教育の充実、総合計画では、第1節の保育・幼稚園と第2節の児童・母子・父子福祉というあたりを一括りにしております。すべての子どもがいきいきと活動でき、親が子育てに喜びを感じ、希望が持てるよう、地域におけるさまざまな機関が連携するなかで、子育て環境及び保育・教育内容の充実を図ります。</p> <p>なお、家庭教育の重要性および家庭の役割を親が自覚し、家庭での基本的生活習慣</p>



の確立や、絵本の読み聞かせや、体験活動など、情操教育に積極的に取り組んでいただくなど、市民協働により、さらに就学前教育の充実を推進してまいります。

関わる基本施策としては、①子育て支援の充実、②保育・教育内容の充実です。

(2) 学校教育の充実でございます。家庭・地域と連携した、開かれた学校づくりや学校施設の整備を進め、子どもが楽しく学校に通うなかで、確かな学力、豊かな人間性、健康な体力など「主体的に生きる力としての人間力」が育成されるよう、学校教育の充実を図ります。また、学習機会の拡充や体験学習、特別支援教育の充実に努め、時代のニーズに対応した教育の推進を図ります。さらに、学校設備の充実を進めるほか、児童・生徒の安全対策の充実を図ります。

基本施策としましては、4点です。①学校ユニバーサルデザイン化構想の推進、内容としては、学力向上と個性を活かす教育の推進、道徳教育や人権・同和教育を中心に豊かな人間性を育む教育の推進、社会の変化に対応する教育の推進、教育コミュニティづくりの推進、教育指導体制の充実、②学校施設・教育環境の充実、③いじめ・不登校対策、教育相談事業、特別支援教育の充実、④小中一貫教育、保幼小連携教育の推進でございます。

(3) 青少年の健全育成の推進では、青少年の育成に関わる関係機関・家庭・学校・地域社会の連携のもとで、大人たちが子どもたちに積極的に関わり、同年齢だけでなく異年齢のなかで多様な活動を行う機会を作ることで、青少年の健全育成活動を推進します。

基本施策は、①健全育成推進体制の充実、②多様な体験活動の機会の拡充です。

(4) 生涯学習の推進は、市民一人一人が豊かに生きがいのある充実した生活を営み、活力に満ちた地域社会を形成するため、誰もが学べる学習環境を整備するとともに、市民の自主的な活動への支援を図ります。

基本施策が、①生涯学習推進体制の充実、②生涯学習環境の整備、③公民館・図書館の充実です。

(5) スポーツの振興では、指導者の養成やスポーツ施設の整備・拡充を図るとともに、地域において、年齢や体力、目的に応じて生涯にわたり気軽にスポーツを楽しむ環境づくりを推進します。

基本施策としては、①スポーツ施設の充実、②生涯スポーツ活動の推進です。

(6) 文化・芸術の振興は、市民が文化芸術活動を通じて、郷土や地域に愛着と誇りをもちながら、心豊かにやすらぎと潤いのある暮らしを送ることができるよう、市民の自発的な活動を支援し、貴重な文化的遺産の保存と豊富な歴史・伝統・文化資源を活かした、文化芸術都市の形成に向けての取組を推進します。

基本施策が、①文化芸術活動の充実、②地域の歴史的文化的遺産の保存及び活用、③文化芸術に係る環境の整備及び充実です。

4. 大綱の期間、大綱が対象とする期間は、次の総合会議で決定していただくことを想定し、平成28年2月から3年間とします。ただし、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて本大綱を改定します。ということで、概ね第4次八幡市総合計画の後期に基づいた形での大綱(案)となっております。

[市長] ありがとうございます。この大綱案に関しまして、何かご意見等がございますでしょうか。

[委員] 自由に発言させていただいてよろしいでしょうか。

[市長] どうぞ。

[委員] 基本的には、市長さんの色々なお考えをふまえて、我々が何とか教育の充実、発展に寄与したいという立場なのですが、教育というのは、それを取り巻く市全体の様々な環境の中で教育というものがあります。おおもとの部分で言いますと、現在八幡市で教育を受けている子どもたちの阻害要因。或いは、それを教えていただいている、



[市 長]

教育に携わっている人たちの環境整備というのでしょうか、教育の前提の社会的課題を含めて教育を進めていくことに、重責を感じているところでございます。

一方、そういう八幡市全体が置かれている様々な環境が、その底辺のところでは非常に大きな阻害要因となっている面があるというようなところから考えますと、八幡市自身に活力ある人材が集まるような環境、或いは若い世代が、せつかく八幡市の良い教育を受けて育っても、皆外へ逃げていき、戻ってこないというようなところを危惧しています。こういったあたりにつきましては、市長さんは非常に広いお立場で、市の実態を考えて思いを巡らされていると思いますけれど、例えば、スポーツ振興であれば、よくあるところでは大学を誘致したり、スポーツ関係の指導者が集まることを模索したり、そういうさまざまな方策によって人材を集めたり、活力を盛り上げていくなど、ちょっと大きな話で申し訳ないのですが、これらのことについて、もしお答えいただけるようなことがあれば、お聞かせいただければと思うのですが。

少しミクロの話をしてみますとね。ここにも少し書いてありますが、家庭学習は、例えば絵本の読み聞かせ等は、大切だと思っていまして、先だって、ある自治会で、子どもさんが多く、ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・J・ヘックマン著の幼児教育の経済学の一部をお話をしていると、あるお母さんからメールをいただいて、「今、子どもが幼稚園に行っています。八幡市に来たときは不安だったが、私の話を聞いて安心した。」以前の自治体では、検診の時など保健師さんが、「幼児教育のためにはこのような絵本が良いので、参考にどうぞ。」と持ってきたそうです。

一つの事をするにしても、八幡市で言うと教育委員会、健康部、福祉部という形になりますけれど、各部の取組の中で、そういうトータル的な取組を突き詰めてやっていくことが大事かなと思っています。確認していないので詳細は掴めませんが、八幡の行政では、その辺のところまではできていないと思います。

今日も、八幡人権交流センターを所管する市民部長と話しをしていたのですが、家庭教育支援員を含めて、全体で統一する必要はないけれど、そのようなことを進めれば良いのじゃないかと思いました。重要性は理解しているけれども、組織を挙げて取り組んでいない。

ミクロの部分で取り組んでいけないというのは、ジェームズ・J・ヘックマンの言葉でいえば、アメリカ系米国人の幼児について、幼稚園教師を週に2回か3回派遣して家庭教育をした。40年間フォローしているらしいですけど、その中で10才位までは、IQ等は関係ないようです。IQはIQで、特化したやり方があるようですが、しかし、40才代でどうなるかを見ると、貧困層で幼児教育を受けたグループと受けていないグループを見た時に、片やTaxpayerで、もう一方は生活保護世帯の様な差が出てきた。ジェームズ・J・ヘックマン曰く、これほど幼児教育は、得となる公共投資で、効果の高いものはない。このように時系列で追った研究はないので、今後、焦点になるのではと思います。

もう一つは、市まちづくりの活力については、商業・工業の余地は少ないのですが、どのような形で生み出していくか、今の財源構成では社会福祉経費そのものが、かなり圧迫される可能性がありますし、50才代の職員が辞めていく中で、年齢構成が少し良くなっていますが、先行きは不透明なところがあるため、違った意味での活力で税金を確保しなければいけないので、全体的に市町の土地利用、農政を含めた考え方を再検討する必要があると思いますが、一朝一夕にはできないので、既存の施策プラスそういった形の事をやっていかなければいけない。

イメージアップとしては、この教育委員会の分野の文化の面で、石清水八幡宮が12月下旬に国宝として告示され、正式決定になると思いますので、石清水八幡宮を含めた関係は、進めていかなければならないと思います。

色々個別の話はありますが、今の自治体がやらなければならないのは、高齢化対策



についてどうするのか、各市町とも健康寿命を延ばすという形で、医療介護法関係の医療経費の歳出を抑えたい。施設の言いましても、医療介護の一体化兼在宅介護・医療も施設が足りないし、介護士等の労働力の限界もきている、といった少子高齢化の話と、子育てと健康づくりで人口をいかに増やすかということ、プラス財源をいかに生み出すかということ、八幡市の場合は、平成35年末に新名神が高槻・八幡間、城陽・大津間が開通し、インタージャンクションができて非常に便利になり、八幡市ではありませんが、世界有数の不動産会社のプロロジスが京田辺市に2ヶ所予定されています。これによって雇用が出てきますが労働力の限界もありますので、労働力や土地利用もあわせながらやっていかなければならない。

今まで八幡市は、住宅都市ですから産業施策等はしなくて良かったわけですが、それを少し改める必要があります。改めるにあたって、この20～30年間、商工観光課施策を担っている職員は、おそらく2名だと思います。ところが、今しなければならぬ事が多いので、消化不良状態が現状です。

しかし、八幡市の将来の為に取り組んでいかなければならないというのが、教育の以前の部分をどうするのかは、それはそれであるのですが、人を増やせばいいかといっても、適材適所がありますからできないですが、その辺りをこの4項目にわたってまとめていく必要があるかなと思います。

[委 員]
[市 長]
[委 員]

ありがとうございました。

他にございませんか。

教育大綱（案）の2ページ目に（2）学校教育の充実の2行目に確かな学力、豊かな人間性、健康な体力が教育の柱なんですね。学校教育を中心に、今の教育界の課題と八幡市の課題がかなり網羅されていて、この大綱（案）は、かなりまとまった文章になっているのではないかと思います。

その中で、私がこの立場になって3年になりますが、今日も実は、教育委員会が2時から1時間ありましたけれど、その前に例年、教育委員会で計画して、幼稚園を含めて学校訪問をして、その後給食を取るのですが、素晴らしい取組だと思います。3年前にこの立場になった時、八幡はまだこんな事業があるのかと、正直思いました。

学校訪問の中身は、校長先生のお話をお聞きして、意見交流をして、その後、学校の様子を見て授業風景を見るなど、時間にして1時間から1時間半位、毎回時間を費やしています。3年前は、授業に集中できない子どもの姿、学級崩壊に近い姿が何校か部分的に見られましたね。今年は、それが皆無に近いですね。中学校もかなり落ち着いた授業風景です。それは、先生の努力だけじゃなく、学級会も含めた施策なんだろうなと思います。

しかし、残念なのが、全国学力調査を見た時に、まだ満足できる数値に至っていない。全国平均値に達しないという状況の中で、色々な観点からの報告を教育長からお聞きしているのですが、今の子どもたちの課題は、帰宅後の家庭学習ができていないので、何とか家庭学習時間を増やせないか否かを教育委員会で話している状況です。この家庭学習時間が、全国平均にたどり着けていない原因かなと考えています。

[委 員 長]

学校が統廃合した時点で、非常に混乱した時期がありましたが、それを乗り越えて、最近は落ち着いてきたと思います。それと施設設備に関して、八幡市が色々な手立てをしていただき、整備していただいた成果は、子どもたちの心には入っており、非常に落ち着いた良い学校になってきていると思います。

それが、学力に結びつかない、確かな学力に結びついていないのは、これから私たちや現場も含めて、さらに尽力する課題だと思っていますけれども、私としては、教育に多大な歳出をしていただいたことに感謝しています。

さらに高い見地からのご助言をよろしくお願いいたします。

[市 長]

どうもありがとうございます。次、どうぞ。



[委 員]	<p>私の娘が、公立の地元の中学校に通っているのですが、同じ保護者・親から聞くのは、何人かの私の友人の中にも、子どもさんが男山三中のスタディサポートに通っているのですが、とりあえず3年と決まっているので、3年が終わればどうなるかを聞かれる事があります。塾に行っていない中学生活で、もちろん学力を上げることは大切ですが、クラブ活動を熱心にして、体力づくりということもあるでしょうし、スタディサポートはクラブとの両立ができるので非常にありがたいと言われる事があります。</p> <p>公立高校の受験時の内申点は、昔は中学3年生だけだったのが、今は中学1年生からの持ち上がりになっています。中学1年生の娘が1年生の最初の間テストに臨んだ時に、親のイメージからすると、そんなに難しくない内容だと思っていました。実際に娘からクラスの平均点は何点だったと尋ねたところ、70点台、60点台とか30点代の人もいるとのことでした。1年生から30点代の人たちは、公立高校に行くなら内申点にかかわるのに、親は何も言わないのかなという話をしていたのです。1年生でつまずくと、彼らに高校進学希望が持てるのかどうか不安になりました。子どもたちの意識を変えるのは当然ですが、保護者の意識も変えないと、成績は伸びないのかと思いました。学校の先生方も頑張ってくださいているのですが、それだけじゃ前には進まないのかなと感じました。</p>
[市 長]	<p>スタディサポートは、3年間検証してからなので、まだ結論は出ないと思うのですが、内申のことは分からなかったのですが、教育長そのへんはどうなんですか。</p>
[教 育 長]	<p>確かに、今の公立の内申は中学校1年生からきます、以前は3年生からでした。</p>
[委 員]	<p>中学校1年生からいくということは、皆1年生から頑張っていこうと思って臨んでいたと思うのですが、30点代で本人は不安にはならないのかなと思いました。また、その子どもたちは、不安にならないのかな、その子たちは、3年後の未来を見ているのか不安になりました。1年生からつまずいて高校進学等の夢はどうするのだろう。誰がリカバリーしてあげるのだろうと思いました。</p>
[市 長]	<p>少子化なので、枠は広くなるか分かりませんね。私たちの中学時代は、成績が非常に悪かったのに2年ぐらいで急にトップに駆け上がった人もいましたが、まあそんなものかという感じでしたかね。</p>
[教 育 長]	<p>大綱案ですが、総合計画との関連も含めて、大綱ですから、これ位の大きな案で良いのかなと思います。この大綱や基本方針をどの様に具体的な施策に繋ぐのか。また、市長にお願いしなければいけないのは、そこに予算を付けてもらう等、そういったことに繋がってくると思うのですが。この大綱につきましては、大筋良いのかなと、個人的には思っています。</p>
[市 長]	<p>基本的には、教育長の言われた感じですね。少し言えば生涯学習の部分が少し複雑ですね。これは社会教育とも関係しますし、生涯学習の方が広い感じがしますが、3年のスパンなので良いのかなとも思います。皆様も、次回までに気が付かれたことを事務局の方へお願いしたいと思います。検討すべきところは検討したいと思います。</p> <p>それでは、次第の3. 八幡市の教育行政についてです。「平成25年度全国学力・学習状況調査『保護者に対する調査』の分析結果」と「就学援助についての資料」をお配りさせていただいていますので、これについて教育長の方から説明をお願いしたいと思います。</p>
[教 育 長]	<p>3. 八幡市の教育行政について</p> <p>まず、全国の就学援助率が約15%です。それで、本市の就学援助率をみると小・中平均で26.6%です。全国と比較すると10ポイント位高いです。一時就学援助率が伸びており、平成23年度ですが、小・中平均で27.9%まで上がりましたが、その後なだらかに26%代に下がってきています。本市の教育を進めていく上で一つの大きな課題が、この就学援助にみる子どもの貧困に、これからどのように進めていくかを考えなければいけません。</p>



もう一つは、先ほどもありましたが、家庭の問題ですね。家庭の社会的経済的背景は、保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標を4等分したものです。

衝撃的なのは、2ページ目の平日の学習時間と教科の平均正答率の関係の例の表のSESの高い層で、全く勉強しない人が学力診断テストで60点なのに比べ、SESの一番低い層では、3時間以上勉強しても60点に達していないというデータがあります。本市の指導・援助の形は、どうなんだろうとショックな数字です。

3ページ目のLowest SESでかつ学力が高い児童生徒には、以下の特徴が見られる。市長が先ほど仰っていましたが、読書や読み聞かせ等々をやっている家庭とか、すれば上がるという話では、ありません。

学校で言いますと、4ページ目の不利な環境においても成果を上げている学校の取組で、家庭学習の指導の充実や管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教育研修の重視等々、そのような事を実践している学校が、困難をクリアーしている家庭であり学校であるという、明るい方向性を示しているデータでもあります。

本市として、先程の就学援助の率とSES等々のデータは、校長会ではこの資料をお渡ししながら、学校としてはどのような施策が、このような子どもたちの家庭環境を含めた子どもたちの克服に繋がるのか。このような本市の実態なので、委員の皆さんも必要なコメントが必要なら話題提供にお話しさせていただきますので、よろしくお願いします。

[市長]
[委員]

ありがとうございました。

さらなる学力向上には非常に厳しい環境にあると思います。中でも、家庭の学習時間が非常に低いということがあげられます。家庭環境をどの様に変えたらいいのか、どうしたら変わるのか、学校の先生方の努力はもちろん大事だけれども、私が最初に申し上げましたような、子どもたちの置かれている環境・現実というのでしょうか、こういった社会的環境整備を同時にやりながらという事が必要であります。今の子どもを取り巻く大人たちが、いかに環境を整え手を差し伸べられるかということが重要です。したがって、現状を変えるにはやはり一歩踏み出す施策というものが、家庭学習の時間を増やすために必要ではないかと思います。学校では、一生懸命やっただいています。学校では、子どもたちは「授業が分かる」と言っています。しかし、家では「学習できない」というのが現実です。家庭での学習をお願いしつつ変わらないのであれば、何らかのきっかけを作るような仕組みや組織のようなものをつくらなければ変わらないのではないかと思います。

[市長]
[委員長]

ありがとうございます。

私は、ずっと八幡で教育してきて、八幡の実情を今まで見てきて、今の小学校、中学校を回らせていただいている時、学校の先生方は色んなことで、随分手を尽くし、また、学校の設備環境も良く、学校サイドとしては完成していると思います。これもしてほしい、あれもしてほしいというよりも、本当に完成に近づいて、他の市町村と比べれば、また、以前と比べたら随分と環境も変わり整備もでき、アンケート等を見ていると子どもたちも「学校は楽しい」と、「勉強は分かる」と出ているわけですよ。子どもたちは、学校に満足しているわけなんです。それなのに、なぜ学力が上がってこないか。

私は、八幡という土地の風習もあると思います。「学校に行き、勉強すればそれで良い」という考えが定着した思想なんです。親は先生にお任せというのも、ものすごく定着していました。そこへ新しく転入してきた人たちは、そこでもって、そうじゃないよという意識も生まれた。それからある集団の中では、高め合うという集団も生まれつつあるのですが、学校でやっているのだから、家でやる必要がないという環境で育っている人が多いので、その人たちを意識改革する方法というものは、社会教育や学



<p>[委 員]</p>	<p>校教育も含んで、手を打っていかなければならない時期なのかなとすごく思います。</p> <p>本日、幼稚園にお伺いしたときの先生の話では、少し障がいを持っておられるような発達障がい児をお持ちのお母さんとかが、なかなか幼稚園の先生の話を理解していただけない親御さんがいらっしゃる、とのことでした。</p> <p>発達障がいを受け入れてくれない親御さんが、その子にとって、最終的にその子の将来を親が見るのではないので、その子が一人で自立してゆくために、どうしていつてあげたらいいのかを受け入れてもらうにはどうしたらいいのかを、今日、幼稚園で考えたのです。</p> <p>親のエゴだけで、サークルなどに参加させないとか、京田辺市にある施設に行かないとか。幼稚園の先生が、どれだけ勧めてくださいっても受け入れない親御さんが居るのを聞いて、いつも悲しいなと思います。</p> <p>それを一つ受け入れることで、幼稚園では、先生も付き手厚く見てくださるし、その子が、小中学校に上がった時は、30人、40人の学級の中の一人になった時に、その子の対策を打ってもらうのは、その子の症状を理解したうえで、「声掛けをしてください」とか、「こういう対策を打ってください」という一言を言ってあげることによって、その子はスムーズに学校生活を送れるのになと思います。</p> <p>保護者が、ただそれを拒否してるだけでは、いつまでたっても理解してもらえないと思うところがあって、そういう親御さんに対して社会教育や行政が働きかけなければならぬのでは、柔軟に考えてもらえたらと思いました。保護者のエゴだけで、別にいいのじゃなくて、その親御さんがもう一步踏み込めば、最終的にはその子どもさんにとって、より良い学校生活が送れると思いました。</p>
<p>[市 長]</p>	<p>障がいのあるお子さんに対する早期のケアというのと、市サイドの協力関係があれば比較的早期に受け入れてもらえます。親御さんの気持ちの問題として、だから駄目ではなくて、それはそれで認めながら、どうしていくかということではないのかなと思います。しかし、障がいのレベルの問題になりますね。やはり早期対応が望ましいということですね。</p>
<p>[委 員]</p>	<p>一つだけ宜しいでしょうか。今日、八幡小学校を訪問しましたが、常々思っているのは、私もこの2年間、教育委員会の命を受けて算数科の研究を進めてきました。2月でしたかね、大学教授の指導を受けながら、こういうスタイルで算数の授業を進めようと。その結果、どの学年でも一定の結果が生まれ、型をはめて、教え込んだのだが、一定の効果を上げたお話をされて感銘しました。そのことに関係して、今年度、教育委員会の指定枠が終わったのですが、市教育委員会が独自の判断で、学校が続けて研究したいと申し出をされ、今年も続けて算数の研究を進められています。学習問題解決までもっていけるような算数科の指導の在り方、2年間かけて研究を進めたい意向があって、市教委の方で予算を付けて頂いたということなんですね。</p> <p>そういう研究を進めることについて、要するに学力を高めるだけではなく、外部から指導を受けて、一つの取組のために先生方が一致してやることですね。これも教科の時間だけじゃなく、色々ところで説明していったのですが、先生方が一つになって、それが学校の組織の全ての取組に広がっていくのです。</p>
<p>[市 長]</p>	<p>3ページのキーワードは、「教育熱心」ですね。両親が教育熱心だとこのようになる。学力と経済学じゃないけれど、相関関係はないけれど、親の姿勢は何だといえれば1点目、「教育熱心だが、比較的生活指数は低い」が学力が高い傾向である。</p> <p>2点目、日常の生活での言葉遣いの間違いなどを指摘している等を考慮してみると、これも教育熱心で括れる部分があるかなと思っています。</p> <p>今の教育で、私が少々不満に思っているのが、例えばG7の国、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリス、カナダ、イタリア、日本で、なぜ日本だけがキリスト教圏ではないのかを答えられないといけないと思います。私は私なりの問題意識を持って研究</p>



しましたが、社会思想について、現在との結びつきについては、先生方それぞれがきっちり把握してほしいと思います。

私が受けた教育の中で、これは中室牧子先生は、「2000年以降のアメリカでは、エビデンスに基づかない限り、教育を説けないことが共通項になっている」のであれば、日本では許されているので申し上げますと、縄文土器というのは、万年単位で、その当時の土器は最先端工業品です。客観的事実だけを見ると日本は工業的先進国だったと言えるわけです。しかし、そんな事は習ったことがないということです。

これも社会人になって知った事ですけど、源氏物語は長編小説であり、世界最古で女性が書いた。私たちは、事実を教えてもらっていますが、残念ながら、その世界的にどうなのかは教えてもらえなかった。学力、学力と言いますが、広く現実を説明できる、もしくは、その物の実態を本当は先生方が勉強して、子どもたちにサジェストしてほしいと思います。

これは次の段階で、まずは基礎学力ということで、お願いしなければいけないのかなと思う事と、究極的には家庭生活、教育や親の態度が影響していると思います。そこはもう学校が責任をとれないのじゃないかなと思っています。「家庭内学習で、して頂くべき事はして頂かないと限界がありますよ。」と言うべきですね。

ただし、行政としては先ほど言ったように、「お子さんに読み聞かせてをしてくださいね。」というのであれば、具体的にどんな本を読むかを提示してあげる。中室氏風に言えば、具体的な目標を与えてお願いするように言った方が良いのかなと思っています。

今の八幡市は、教育元年がしばらく続いていると思っけていまして、教育現場へのテコ入れをしていかないと、立ち遅れるだろうと思います。理念も大事だけれど、結局は「傾向と対策」だと思います。まずは、学校現場に迷惑をかけずに「対策」を打ちましよう。先生方は、多忙だと思いますが、次のステップに向けて考えていただきたいと思っています。

他に何かございませんか。

それでは、以上をもちまして第2回総合教育会議を終了します。

次回の総合教育会議は、2月初旬を開催予定とします。

どうもありがとうございました。